

## 2019 年 6 月 18 日 山形県沖地震 現地調査報告

岩手大学地域防災研究センター・山形大学大学院村山研究室

調査実施日：2019 年 6 月 21、22 日

調査者：岩手大学地域防災研究センター 熊谷 誠

山形大学大学院教育実践研究科 村山 良之

### 1. 地震の概要：

発生日時：2019 年 6 月 18 日 22 時 22 分

場 所：山形県沖（酒田の南西 50 km 付近）、深さ 14 km（暫定値）

地震の規模：マグニチュード 6.7（暫定値）

発震機構：逆断層型

震 度：【最大深度 6 強】新潟県村上市で震度 6 強、山形県鶴岡市で震度 6 弱を  
観測したほか、北海道から中部地方にかけて震度 5 強～1 を観測。

津波の発生：あり（新潟西港観測点で 0.1m（速報値）など秋田県、山形県、新潟県、  
石川県の沿岸で津波を観測。）

津波注意報発表：山形県、新潟県上中下越、佐渡、石川県能登  
→解除（6 月 19 日 1 時 02 分）

参考資料：「令和元年 6 月 18 日 22 時 22 分頃の山形県沖の地震について（第 2 報）」  
気象庁  
「2019 年 6 月 18 日山形県沖の地震の評価（6 月 19 日公表）」地震調査  
研究推進本部地震調査委員会の見解、  
「山形県沖を震源とする地震による被害および消防機関等の対応状況（第  
12 報）」総務省消防庁より抜粋

### 2. 被害の状況：

#### 1) 人的被害：39 人

宮城県、秋田県、山形県、新潟県、石川県で重軽傷者が発生。

#### 2) 住家被害：476 棟

新潟県村上市で半壊 10 棟のほか、秋田県、山形県、新潟県で一部破損が 466 棟  
発生。特に、一部破損 466 棟のうち 459 棟（98%）が、山形県鶴岡市（97 棟）、  
新潟県村上市（362 棟）に集中している。

参考資料：「山形県沖を震源とする地震による被害および消防機関等の  
対応状況（第 12 報）」総務省消防庁より抜粋、加筆

### 3. 現地調査結果

今回の現地調査では、6月21、22日にかけて、特に被害が集中したと見られた山形県鶴岡市温海、小岩川周辺と新潟県村上市府屋周辺を中心に被害状況の確認や聞き取り調査を実施した。

いずれの地区も国道7号線（日本海パークライン）沿いに位置しており、温海地区は7号線からさらに東に進むとあつみ温泉があり、西流する温海川沿いに温泉街が広がっている。対象地域間の国道7号線上の通行止めはなく、JR羽越本線も運行していた。JR小岩川駅は、ホームの被害により立入禁止となっていた。

これらの地区で外観から確認できる被害として住家・建物では“瓦の落下”、“壁材の剥離、脱落”、“ブロック塀の破損・倒壊”が見られた。また、鶴岡市温海地区と村上市府屋地区では法面、斜面の崩壊が生じていた。屋根の被害が集中して見られた鶴岡市小岩川地区では、後述の住民からの聞き取りの通り、地区の南北端部での屋根被害がほとんど見られず、小岩川駅を含む中心部に被害が集中していた。

地盤の液状化現象については、鶴岡駅周辺での発生が報道されていたが、対象の地区における液状化現象が発生したと思しき痕跡等は認められなかった。東北大学災害研の調査では、村上市府屋で一部マンホールの浮き上がりが見られたとの報告あり。

なお、本調査の時点で、調査対象とした地区では道路上に飛散したと思われる瓦やブロック塀等は撤去されており、通行に支障が出る箇所はなかった。また、すでに応急危険度判定の調査が開始されており、6月21日の時点で判定済みの建物が随所に見られた。

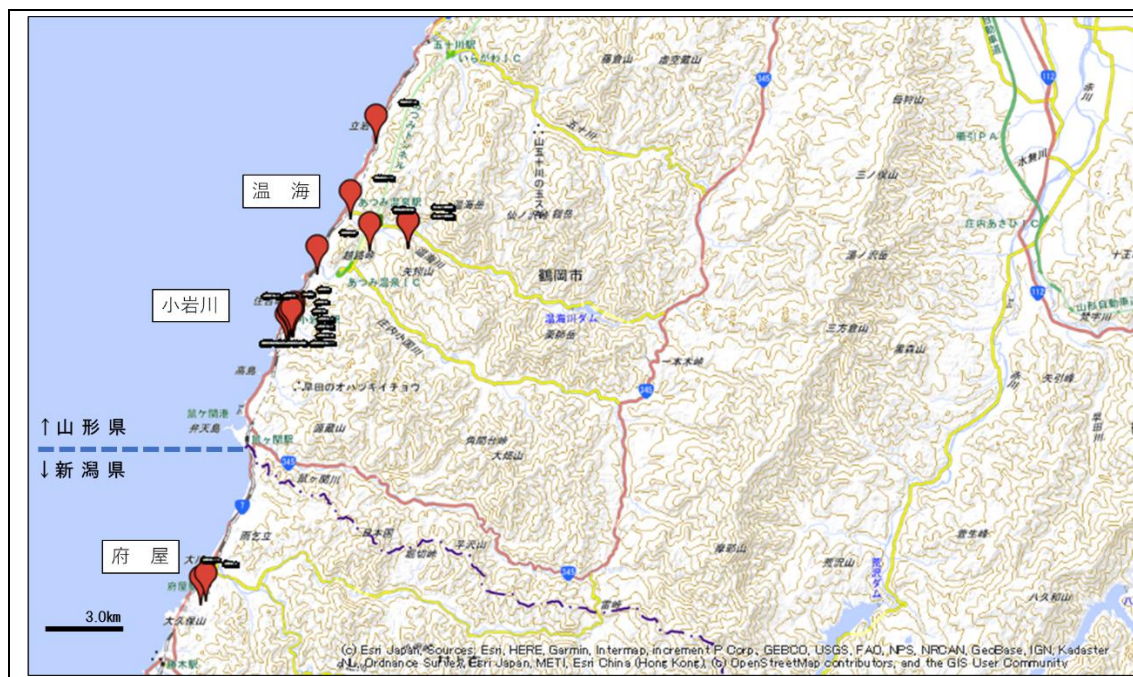


図1. 調査対象地全景と位置関係（地理院地図に加筆）



図 2. 鶴岡市温海地区周辺の被害状況（地理院地図に加筆）

#### ◆温海地区での聞き取り

- ・突然の縦揺れがあり、その後の揺れは記憶に残っていない。縦揺れで玄関、母屋の瓦屋根が落ちたが、建物内の家具類が倒れるなどの被害は生じなかった。建物内の被害がないので、翌 22 日から宿泊客の受入れを再開することにした。隣家の建物内では家具が倒れて、物が落ちるなどの被害があったようで、建物によって被害の差があったようだ。（宿泊施設）
- ・店内の棚に陳列してあった酒瓶が床に落ちて割れた。冷蔵庫に入れてあった酒瓶も、冷蔵庫の扉が全部開いて床に落ちた。（酒屋）
- ・母屋では大きな被害がなかったが、家の庭に建つ土蔵では被害が出ている（ヒビ？物が散乱？）（菓子店）。



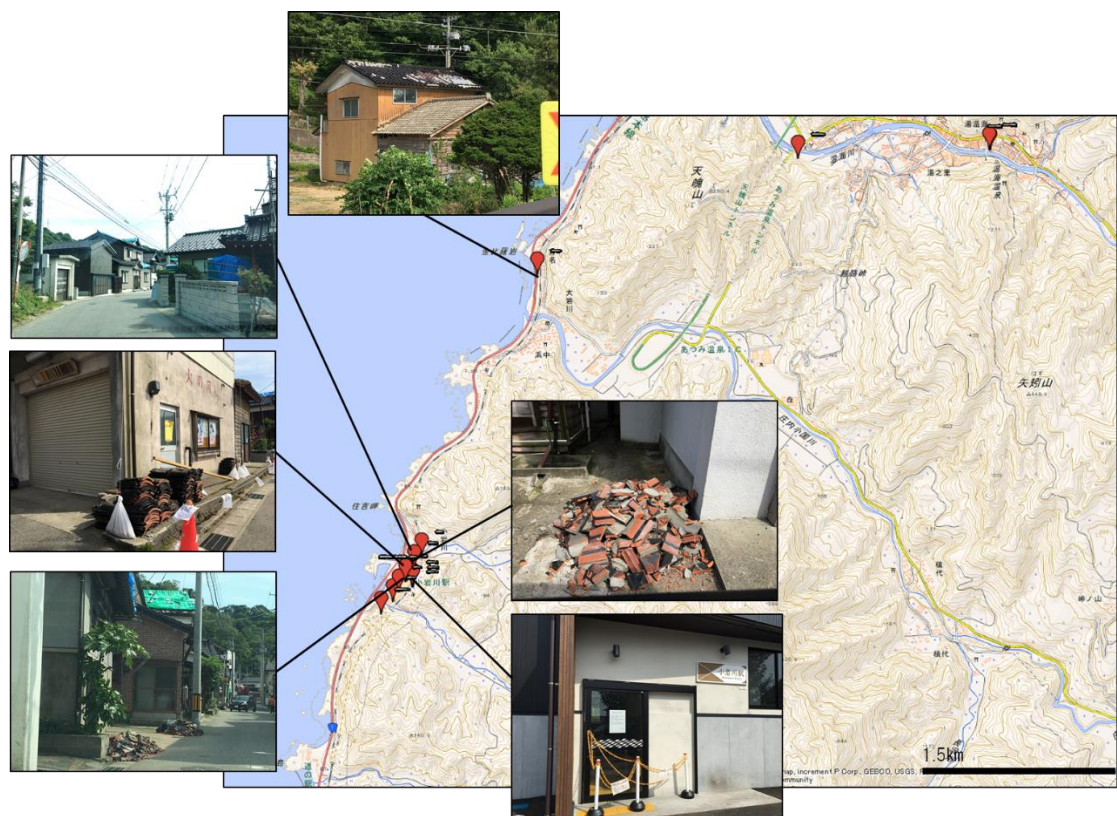


図 3. 鶴岡市大岩川・小岩川地区周辺の被害状況（地理院地図に加筆）

#### ◆小岩川地区についての聞き取り

- ・強い縦揺れの後、横揺れがあった。
- ・小岩川地区では、住民が一次避難場所に向けて徒歩で避難していた。地区内に一次避難場所は複数あり、住民それぞれが最寄りの避難場所へ向かっていた。
- ・地区内の道路が狭いため、車を利用した避難はかえって不便なため、徒歩で避難した。家族に要支援者がいたが、家族で背負って避難場所まで移動した。
- ・鶴岡市の工務店が地震の翌 19 日から駆け付けてくれたため、落下した瓦の撤去、片付けやシート張りなどは地区全体で 19 日のうちにかかなり進んでいた。
- ・地区の南、北側では被害が少なく、小岩川駅を含む地区の中心部での被害が多かったようだ。



図4. 村上市府屋地区周辺の被害状況（地理院地図に加筆）

◆府屋地区（山北支所管内）における被害・避難等の状況

建物被害

府屋地区 瓦の落下、ブロック等倒落

山北総合体育館下 法面の崩れ

山北支所 ガラス破損

ライフライン被害（6月19日7:00現在）

府屋（配水管漏水）断水工事中 影響世帯数約30世帯

避難の状況

23:45: 避難所開設（放送）山北会館、ゆり花会館、山北総合体育館、

1:00: 山北小追加

※最大時463名の避難があった。（6月19日1:00）

「村上市災害対策本部会議資料」（村上市提供）より抜粋、加筆